

PIERIA 音楽ドイツ語文法講座 レベル1

【目次】

課	内容	コラム
1	文字と発音	楽器名の語源①
2	主格人称代名詞、動詞現在形	楽器名の語源②
3	幹母音変化型動詞、定動詞の位置、疑問文	演奏標語の実例①
4	名詞の姓と格、定冠詞と定冠詞類	演奏標語の実例②
5	名詞の変化	音楽家の名前①
6	不定詞と不定冠詞類、接続詞	音楽家の名前②

## 2.1. 人称代名詞（1格）

ドイツ語の人称代名詞（1格）は次のとおりです。

	単数		複数	
1人称	ich	私が	wir	私たちが
2人称	du	君が	ihr	君たちが
	Sie	あなたが	Sie	あなたたちが
3人称	er	彼が	sie	彼らが
	sie	彼女が		彼女らが
	es	それが		それらが

- \* 2人称 du、ihr は、ごく親しい間柄の人（親子、兄弟、夫婦、親友、恋人など）や子供などに対して用いられ、それ以外の人に対しては Sie（敬称）を単数、複数いずれにも用います。敬称の Sie の頭文字は常に大文字で書きます。

## 2.2. 動詞の直説法現在形の人称変化（1）

- 2.2.1. ドイツ語の動詞で、辞書を引くときの形を不定詞（不定形）と呼びます。不定詞は必ず-en,(-n)で終わります。この-en(または-n)を語尾と呼び、語尾を取り除いた部分を語幹といいます。

不定詞	語幹	語尾
trinken（飲む）	trink-	-en
hören（聴く）	hör-	-en
proben（リハーサルをする）	prob-	-en

- 2.2.2. 英語と同様、ドイツ語の動詞は、主語の人称、数に応じて形を変えます。そして、その変化した形を定動詞（定形）といいます。基本的な現在人称変化は以下のとおりです。

ich	trinke	wir	trinken
du	trinkst	ihr	trinkt
er			
sie	trinkt	sie	trinken
es			

2人称敬称：Sie trinken

ich höre	wir hören
du horst	ihr hört
er sie hört es	sie/Sie hören

ich probe	wir proben
du probst	ihr probt
er sie probt es	sie/Sie proben

【略】

### 2.3. 直説法現在の主な機能

#### ① 現在に関する事柄

Ich wohne in Tokio.

私は東京に住んでいます。

(in… …に、wohnen 住んでいる)

Ich spiele Harfe.

私はハープを演奏します。

(Harfe ハープ、spielen 演奏する)

Er lernt Klavier.

彼はピアノを習っています。

(Klavier ピアノ、lernen 習う)

Ich lese gerade eine Zeitung.

私は今新聞を読んでいます。

(gerade 今、eine ひとつの、Zeitung 新聞)

Ich übe gerade eine Etüde.

私は今エチュードを練習しています。

(gerade 今、eine ひとつの、Etüde エチュード)

Sie singt gerade ein Lied von Brahms.

彼女は今ブラームスの歌曲を歌っています。

(ein ひとつの、Lied 歌曲、von… …の、singen 歌う)

\* ドイツ語には現在進行形がありません。現在の進行する動作も現在形であらわします。

【略】

SAMPLE

－ 練習問題 (2) －

(1) 次の動詞を例にならって現在人称変化させなさい。

(例) spielen 演奏する

ich spiele	wir spielen
du spielst	ihr spielt
er spielt	sie/Sie spielen

1. streichen (撫でる、さする、弦楽器を弾く)
2. binden (結ぶ、レガートで奏する)
3. singen (歌う)

**【略】**

(2) 次の日本語に最も適した動詞を和独辞典で調べ、指定された形で答えなさい。

(例) 指揮をする(ich) ⇒ ich dirigiere

1. 調律する(ich)
2. 習う(du)
3. 作曲する(er)
4. 行く(英語の go) (wir)

**【略】**

## コラム2：楽器名の語源②

前回に引き続き、楽器名の語源についていくつかご紹介します。今回は管楽器編です。

### Posaune

トロンボーンを意味する Posaune の語源は、古代ローマ時代の金管楽器、ブッキーナ (buccina) です。この楽器は長さ約 3.5 メートル、アルファベットの C の形をした銅の管で、名前だけでなく構造上もトロンボーンの祖先であると言われています。イタリアの作曲家、レスピーギ (1879-1936) の交響詩《ローマの松》の《アッピア街道の松》でもブッキーナの使用が指定されていますので、ご存知の方もいるでしょう。11 世紀のスペインでは、アラブの真っ直ぐな管楽器ナフィル (nafir) を取り入れ、トロンペータ・レクタ・モリスカ (torompeta recta morisca、イスラムの直管トランペットという意味) が作られ、十字軍の戦士たちはこの楽器をビュイジヌ (buisine) と称していたそうです。この buisine がフランスでは buccin、ドイツでは Posaune に変化しました。トロンボーンの前祖として 15 世紀ごろ使われていたサックバット (英語で sackbut、フランス語で sacqueboute) は、ドイツ語では Renaissanceposaune や Barokposaune と呼ばれていたもので、このころすでにドイツ語圏では Posaune がトロンボーン属の楽器をさす言葉として定着していたことがわかります。

### Englischhorn

ホルン (Horn) といえば動物の角 (これもドイツ語で Horn といいます) から発展した金管楽器ですが、木管楽器でもホルンと名のつく楽器があります。

まずはイングリッシュホルン (Englischhorn、フランス語でコール・アングレ cor anglais) です。この楽器はオーボエ属で、オーケストラでは通常オーボエ奏者が持ち替えて演奏します。言葉の意味を直訳すると「イギリスのホルン」となりますが、この楽器はイギリスで生まれたわけではありません。ルーツはバロック期のオーボエ・ダ・カッチャ (oboe da caccia 直訳すると狩猟のオーボエという意味のイタリア語) という湾曲した管にホルンのような朝顔 (ベル) をつけた楽器だとされています。その形状から、もともとフランス語で cor anglé (曲がった角笛) だったものが cor anglais に変化したのではないかとされています。また、この楽器が中世の宗教画で描かれている天使が持っている楽器と似ていたことから、Engels-Horn (天使のホルンという意味) が語源ではないかという説もあります。

【略】